



2026年3月期 第2四半期(中間期)決算短信(日本基準)(連結)

2025年11月12日

上場会社名 株式会社 岡本工作機械製作所

上場取引所 東

コード番号 6125 URL <https://www.okamoto.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 石井 常路

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 管理本部長 (氏名) 高橋 正弥

TEL 027-385-5800

半期報告書提出予定日 2025年11月13日

配当支払開始予定日

2025年12月8日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第2四半期(中間期)の連結業績(2025年4月1日～2025年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	20,117	0.4	885	0.6	863	64.4	458	46.8
2025年3月期中間期	20,041	18.8	891	69.4	525	82.2	312	83.2

(注) 包括利益 2026年3月期中間期 909百万円 (207.3%) 2025年3月期中間期 295百万円 (89.6%)

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	69.39	—
2025年3月期中間期	53.59	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	63,234	40,942	64.7
2025年3月期	66,804	40,563	60.7

(参考) 自己資本 2026年3月期中間期 40,942百万円 2025年3月期 40,563百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	80.00	—	80.00	160.00
2026年3月期	—	80.00			
2026年3月期(予想)			—	80.00	160.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	50,000	14.3	4,800	59.2	4,700	61.1	3,000	48.2	453.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年3月期中間期	6,703,795 株	2025年3月期	6,703,795 株
期末自己株式数	2026年3月期中間期	93,077 株	2025年3月期	92,765 株
期中平均株式数(中間期)	2026年3月期中間期	6,610,872 株	2025年3月期中間期	5,831,516 株

第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「1. 当中間決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等の注記)	10
3. 補足情報	11
受注及び販売の状況	11

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における世界経済は、ウクライナ紛争および中東情勢の長期化に伴う地政学的リスクの継続に加え、米国の通商政策がもたらす影響に対する懸念から、依然として先行きが見通しにくい状況が続きました。

わが国経済は、雇用・所得環境の改善や企業の設備投資の回復を受けて緩やかな持ち直しの動きが見られるものの、物価上昇の長期化や米国通商政策の影響等により、今後の景気動向には不確実性が残る状況です。

このような中で当社グループは、今期が2年目にあたる中期経営計画「“INOFINITY 700” Innovation × Infinity」の中で掲げた通り、「世界に類のない『総合砥粒加工機メーカー』として、平面研削盤・半導体ウェーハ研磨装置でグローバルNo. 1を目指す」ことを長期ビジョンとして、2030年3月期の売上高700億円の目標達成に向け、販売体制の強化など業績向上に努めてまいりました。

その結果、当中間連結会計期間における連結売上高は20,117百万円(前年同期比0.4%増)、営業利益は885百万円(前年同期比0.6%減)、経常利益は863百万円(前年同期比64.4%増)となり、親会社株主に帰属する中間純利益は458百万円(前年同期比46.8%増)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 工作機械

国内市場におきましては、中小企業の設備投資を支援する各種補助金の後押しを受け、小型および中型の平面研削盤の更新需要やロボット向け精密歯車の需要の高まりから受注は前年同期を上回りました。売上は前年同期に好調であった大型平面研削盤の販売が減少したため、その水準に届きませんでした。

海外市場におきましては、米国では、受注は前年同期とほぼ横ばいでありましたが、売上は通商政策の駆け込み需要の影響により前年同期を上回りました。欧州では、米国による通商政策の影響が経済の下押し圧力となり、受注・売上ともに前年同期を下回っております。中国では、EV車向けおよび自動運転をはじめとする車載カメラ需要の高まりにより、レンズ用金型向けで平面研削盤を複数台受注したことから、前年同期を上回りました。一方で売上は前期の受注低迷により減少しております。

以上の結果、売上高は12,802百万円(前年同期比12.2%減)、セグメント損失(営業損失)は301百万円(前年同期はセグメント利益512百万円)となりました。

② 半導体関連装置

半導体市場におきましては、設備投資需要が一部で低迷している一方で、通信技術の発達やIoT、生成AI関連分野、自動運転の本格化等を背景として市場の成長が見込まれております。市況としては、シリコンウェーハの在庫調整正常化に向けて少しずつ変化があり、また、次世代パワー半導体、次世代高周波通信デバイス向けの半導体ウェーハなどで一部需要が出てきております。

このような状況の中で当社グループは、半導体事業の収益力維持、向上を目指して、ウェーハ業界向けのポリッシャーやグラインダの次世代新機種開発などの諸施策を進めてまいりました。その結果、売上につきましては、国内や欧州、東アジア向けにウェーハ生産用ファイナルポリッシャーやグラインダを販売し、前年同期を上回りました。受注につきましても、国内や東アジア向けにファイナルポリッシャーの受注を獲得し前年同期を上回ることができました。

以上の結果、売上高は7,314百万円(前年同期比34.2%増)、セグメント利益(営業利益)は1,853百万円(前年同期比80.1%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態の分析

当中間連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して3,570百万円減少し、63,234百万円となりました。主な要因は、有形固定資産が1,349百万円増加した一方で、有価証券が4,100百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が823百万円減少したことによるものであります。

当中間連結会計期間末の負債の合計は、前連結会計年度末と比較して3,949百万円減少し、22,292百万円となりました。主な要因は、短期借入金が2,479百万円、契約負債が1,263百万円減少したことによるものであります。

また、純資産は、前連結会計年度末と比較して378百万円増加し、40,942百万円となりました。主な要因は、利益剰余金が、親会社株主に帰属する中間純利益の計上458百万円、配当金の支払い528百万円により70百万円減少したこと、及び為替換算調整勘定が440百万円増加したことによるものであります。この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の60.7%から64.7%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末と比較して2,996百万円減少し、11,726百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、1,477百万円(前年同期は2,999百万円の使用)となりました。これは主に、契約負債の減少1,267百万円により資金が減少した一方で、税金等調整前中間純利益847百万円、減価償却費1,030百万円及び売上債権の減少918百万円により資金が増加したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、956百万円(前年同期は1,261百万円の使用)となりました。これは主に、定期預金の払戻による収入1,094百万円により資金が増加した一方で、有形固定資産の取得による支出2,053百万円により資金が減少したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、3,724百万円(前年同期は9,510百万円の獲得)となりました。これは主に、短期借入金の純減少額2,553百万円、長期借入金の返済による支出464百万円及び配当金の支払額526百万円により資金が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績につきましては、2025年5月13日に公表いたしました業績予想を変更しておりません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,899	9,894
受取手形、売掛金及び契約資産	11,156	10,333
有価証券	6,500	2,400
商品及び製品	5,049	6,587
仕掛品	9,647	8,391
原材料及び貯蔵品	3,922	3,886
その他	1,176	913
貸倒引当金	△138	△155
流動資産合計	47,214	42,251
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,922	5,960
機械装置及び運搬具（純額）	4,616	4,474
その他（純額）	6,389	7,844
有形固定資産合計	16,929	18,278
無形固定資産	421	394
投資その他の資産		
投資有価証券	404	429
退職給付に係る資産	1,273	1,299
その他	583	603
貸倒引当金	△22	△22
投資その他の資産合計	2,239	2,309
固定資産合計	19,589	20,982
資産合計	66,804	63,234
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,460	2,514
電子記録債務	1,687	1,464
短期借入金	5,926	3,447
1年内返済予定の長期借入金	976	993
未払法人税等	296	692
契約負債	5,739	4,475
賞与引当金	499	755
製品保証引当金	27	33
その他	2,259	2,024
流動負債合計	19,874	16,400
固定負債		
長期借入金	4,115	3,634
退職給付に係る負債	1,196	1,237
資産除去債務	119	119
その他	935	899
固定負債合計	6,366	5,891
負債合計	26,241	22,292

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,783	9,783
資本剰余金	5,042	5,042
利益剰余金	23,256	23,186
自己株式	△396	△398
株主資本合計	37,685	37,614
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	70	97
為替換算調整勘定	2,540	2,980
退職給付に係る調整累計額	266	249
その他の包括利益累計額合計	2,877	3,327
純資産合計	40,563	40,942
負債純資産合計	66,804	63,234

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	20,041	20,117
売上原価	14,321	14,367
売上総利益	5,719	5,750
販売費及び一般管理費	4,828	4,864
営業利益	891	885
営業外収益		
受取利息	46	27
受取配当金	6	13
助成金収入	10	20
物品売却益	48	29
その他	27	26
営業外収益合計	140	117
営業外費用		
支払利息	68	70
支払手数料	158	7
為替差損	218	15
株式交付費	43	—
その他	16	45
営業外費用合計	506	139
経常利益	525	863
特別利益		
固定資産売却益	3	4
特別利益合計	3	4
特別損失		
固定資産処分損	9	4
投資有価証券評価損	—	16
特別損失合計	9	20
税金等調整前中間純利益	519	847
法人税等	207	389
中間純利益	312	458
親会社株主に帰属する中間純利益	312	458

(中間連結包括利益計算書)

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益	312	458
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9	27
為替換算調整勘定	△6	440
退職給付に係る調整額	△19	△17
その他の包括利益合計	△16	450
中間包括利益	295	909
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	295	909

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	519	847
減価償却費	1,020	1,030
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	34	9
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△61	△51
賞与引当金の増減額 (△は減少)	214	245
受取利息及び受取配当金	△53	△41
助成金収入	△10	△20
支払利息	68	70
支払手数料	158	7
株式交付費	43	—
為替差損益 (△は益)	228	△79
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	16
売上債権の増減額 (△は増加)	1,322	918
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,478	△43
その他の資産の増減額 (△は増加)	△449	119
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,798	△220
契約負債の増減額 (△は減少)	△1,455	△1,267
その他の負債の増減額 (△は減少)	△122	△100
その他	17	13
小計	△1,801	1,453
利息及び配当金の受取額	52	41
利息の支払額	△69	△68
助成金の受取額	10	20
法人税等の支払額	△1,246	△121
法人税等の還付額	54	152
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,999	1,477
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△9	△7
定期預金の払戻による収入	—	1,094
有形固定資産の取得による支出	△1,221	△2,053
その他	△31	9
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,261	△956
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△53	△2,553
長期借入れによる収入	1,000	—
長期借入金の返済による支出	△346	△464
社債の償還による支出	△6	—
リース債務の返済による支出	△217	△171
自己株式の取得による支出	△2	△1
株式の発行による収入	9,762	—
手数料の支払による支出	△158	△7
配当金の支払額	△466	△526
その他	△0	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,510	△3,724
現金及び現金同等物に係る換算差額	△75	207
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	5,173	△2,996
現金及び現金同等物の期首残高	11,418	14,722
現金及び現金同等物の中間期末残高	16,592	11,726

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	工作機械	半導体 関連装置	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,589	5,451	20,041	—	20,041
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	14,589	5,451	20,041	—	20,041
セグメント利益	512	1,029	1,541	△650	891

(注) 1. セグメント利益の調整額△650百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	工作機械	半導体 関連装置	計		
売上高					
外部顧客への売上高	12,802	7,314	20,117	—	20,117
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	12,802	7,314	20,117	—	20,117
セグメント利益又は損失(△)	△301	1,853	1,551	△666	885

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△666百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 補足情報

受注及び販売の状況

(1) 受注状況

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同期比(%)	受注残高(百万円)	前年同期比(%)
工作機械	13,839	108.9	10,674	87.9
半導体関連装置	4,800	105.8	17,673	73.1
合計	18,640	108.1	28,347	78.1

(2) 販売実績

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
工作機械	12,802	87.8
半導体関連装置	7,314	134.2
合計	20,117	100.4